



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

西別府遺跡発掘状況

6月から7月にかけて、西別府遺跡群の中の西別府遺跡・西別府廃寺において確認調査を実施しました。

今回の調査では、古墳時代後期（7世紀後半）から平安時代（10世紀後半から11世紀前半）までの竪穴建物跡が8軒以上、奈良時代から平安時代の溝跡が8条、土坑、ピットが確認されました。

古墳時代後期の竪穴建物跡は、いずれも西壁にカマドを設置し、一辺が4mを越す大型のものでした。また、奈良時代（8世紀前半）の竪穴建物は、鉄製品を作る際に出る鉄くず（鉄滓）や鞆（ふいご）に風を送る送风管である羽口（はぐち）、などとともに大量の炭化物や焼土が出土し、鉄製品を作る作業所として利用されていたことが分かりました。これは小鍛冶（こかじ）と考えられる遺構です。さらに、この小鍛冶竪穴建物跡がある場所は、最大幅2.7mの区画溝に囲まれていて、この溝跡からは、奈良時代から平安時代までの土器や瓦が出土しました。この溝が溝内の北西部にあたる施設を囲む機能があったと推定されます。

今回の確認調査では、古墳時代後期に展開していた集落域において、奈良時代に入るに併せて、おそらく幡羅郡役所の一部として機能した区画溝に囲まれた施設ができ、平安時代の終末には、再び一般の集落域となっていた変遷があることが分かりました。



古墳時代後期竪穴建物跡（右上北）

前中西遺跡・諏訪木遺跡パネル展示



6月1日より熊谷市立妻沼展示館において前中西（まえなかにし）遺跡と諏訪木（すわのき）遺跡のパネル展を開催しています。2つの遺跡は市内上之に広がる遺跡で、区画整理事業に伴い、平成8年度から発掘調査を実施しています。

今回のパネル展では、平成20・21年度に実施した発掘調査の成果を中心に前中西遺跡は弥生時代、諏訪木遺跡は室町時代の埋蔵銭について展示しています。展示は12月まで行う予定です。みなさんぜひご覧ください。

文化財センターイベントのご案内

あなたも古代人

日時：7月21日（水）、23日（金）、28日（水）
30日（金）

8月4日（水）、6日（金）、11日（水）

午前の部 10:00~12:00

午後の部 14:00~16:00

内容：まが玉づくり（材料費1人250円）
土器に触れる（無料）・火おこし（無料）

定員：各先着20人程度

会場：江南文化財センター

申込み：当日会場にて（開始5分前まで）

星溪園で俳句を—俳句入門講座—

日時：9月16日（木）、10月7日（木）、
10月14日（木）、10月28日（木）、
11月4日（木）全5回
13時30分~16時（休憩を含む）

会場：星溪園（星溪寮）

講師：伊佐山春愁氏

費用：500円（資料代）

定員：25名（定員になり次第締切）

申込み：9月8日（水）までに、江南文化財センター（048-536-5062）へ

市内遺跡発掘情報

前中西遺跡「古墳時代の集落を確認」

6月～7月半ばまで上之区画整理地内における前中西遺跡の発掘調査を行いました。古墳時代前期～後期の竪穴建物跡を4軒、溝跡を4条などが見つかりました。溝跡のひとつは、約3m幅の大きなもので、覆土（埋まっていた土）からは大量の土器片を検出しました。その中で、高坏という祭祀遺物が数点確認され、水辺でのお祭り（儀式）が行われた可能性が考えられます。調査箇所は、礫が混じる土層であり、非常に固い地盤でした。昔の集落も安定した地盤を選んで営まれたのでしょうか。



溝跡で見つかった高坏（たかつき）

前中西遺跡「弥生時代の竪穴住居跡から土器がまとまって出土！」



弥生土器が見つかった様子

6月中旬から下旬にかけて市内上之の前中西遺跡において個人住宅建設に伴う緊急の発掘調査を実施しました。今回の調査では遺跡の主体となる弥生時代（約2,000年前）の竪穴住居跡が3軒、古墳時代（約1,400年前）の溝跡が1条、時期不明の土坑が1基見つかりました。弥生時代の竪穴住居跡からは大量の遺物（土器や石器等）が出土し、このうち規模が10mを超える1号住居跡からは、残りの良い土器（壺や甕）がまとまって出土しました。

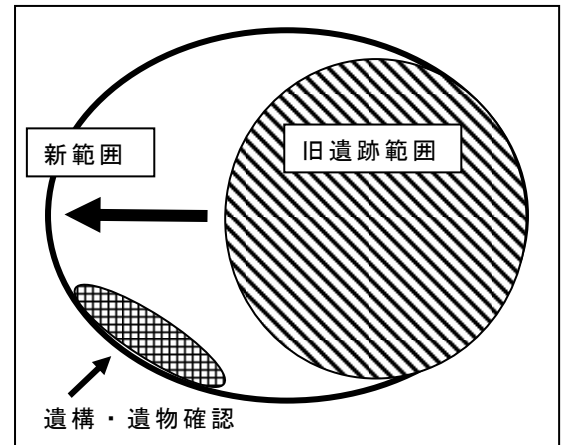
連載 埋蔵文化財の保護活動

第4章 埋蔵文化財包蔵地と隣接地について

埋蔵文化財を保護するためには、どこに遺跡、いわゆる「埋蔵文化財包蔵地」があるか把握する必要があります。遺跡の所在や範囲は、未確定な部分がありましたが、耕作などにより地表面へ土器が出ている箇所があり、これらを担当職員が現地を歩いて確認した実績によって、最初の遺跡地図が作成されました。

その後、より精確な遺跡地図を作成するため、試掘調査を行い、実際に遺構・遺物があるか確認する作業を続けています。そのため、遺跡の範囲を状況に応じて変更する場合があります。遺跡（埋蔵文化財包蔵地）範囲の未確定な箇所については、拡大ないし縮小する可能性があることから、遺構・遺物が確認される可能性がある場所を「隣接地」として取り扱い、保護対象の地域としています。これらを示した埋蔵文化財包蔵地概略図を作成し、文化財センターや開発審査課などで配付しています。

遺跡範囲拡大のイメージ



出土品展示情報

埼玉県立さきたま史跡の博物館 最新出土展「地中からのメッセージ」

7月17日（土）～8月31日（日）午前9時～午後4時30分 月曜休館

展示品：前中西遺跡から出土した土器棺墓、土器、石器など。諏訪木遺跡の木製品など。

江南文化財センター テーマ展 「熊谷の土偶—西城切通遺跡を中心として」

7月20日（火）～10月1日（金）午前9時～午後5時（土曜・日曜・祝日休館）

展示品：妻沼地域の西城切通遺跡から出土した土偶や土器など

文化財センター通信

市指定文化財「金銅大日如来坐像」傍示標の設置



5月末、市指定文化財「金銅大日如来坐像」(有形文化財・彫刻)の傍示標を、仏像が安置されている西別府地内の安楽寺観音堂入口に設置しました。この金銅大日如来坐像は、彫刻的にも秀逸な仏像であります。平成元年に発生した観音堂火災の際にも奇跡的に焼失を免れたという逸話があります。その後、地域住民を始めとした安楽寺の檀家の方々による寄付により平成14年に観音堂が再建され、仏像にとり良好な状況下で保管されています。現在では、徒歩で西別府周辺の文化財巡りをする人々が増えており、その際の目印として生かしていただけたらと期しています。



市指定文化財「いぬ桜」確認調査



6月上旬、三ヶ尻にて市指定文化財天然記念物「いぬ桜」の確認調査を行いました。前年の同時期に調査を行った際には、周辺部における雑草や雑木の繁茂が見られ、樹木本体への影響が懸念されていましたが、今回においては除草等の管理が適宜行われていることが垣間見られ、枝葉の生育状況も良好でありました。

この「いぬ桜」の存在は、天保3年に渡辺華山が完成させた三ヶ尻の地誌、「訪甌録(ほうへいろく)」の運派塚の項にも示されています。樹齢は約280年として推定されており、毎年、5月中旬に白色の特徴的な小花を咲かせます。

文化財センター壁面緑化

「あっぱれ!熊谷流」プロジェクトの一つである「花緑いっぱい・壁面緑化推進事業」として、本年も江南文化財センターの壁面緑化に取り組んでいます。6月半ば、プランターと、網を掛けた手作りの木組みを設置し、ゴーヤやヘチマ、ひょうたんなどのつる植物を育てています。文化財センターにお越しの際には、展示品の観覧と共に、日々成長を続ける生き生きとした植物の様子や、緑のカーテンがつくる日陰の涼しさを体感してみてください。



文化財探訪 根岸家長屋門②—修理工事について



平成22年度に入り、市指定文化財の補助事業として根岸家長屋門の修理工事が始まりました。今回の修理は改築後、ほぼ一世紀を経て行われたもので、屋根瓦を全部降ろし、屋根を支える隅木や垂木などの補修を行う大掛かりな事業となっています。修理事業は根岸家の現当主が中心となり、技術指導をものづくり大学横山研究室が行い、文化財修理を専門とする建築業者が請負って実施しています。

修理の状況や修理過程で判明した知見などは、後に修理報告書としてまとめる予定ですが、建築材に古材使用が目立ち、当初の茅葺屋根から現在の瓦葺に変えていることが想定されるようです。また、かつて養蚕を行ったと見られる繭玉の発見もありました。修理は9月には終了します。雨漏りも解消し、まもなく長屋門にかつての偉観が戻ります。秋の散策シーズンには、根岸家を含め大里地域の文化財を巡るコースもお勧めします。

文化財コラム 古代との遭遇・第4話 古墳時代終末期の八角墳—籠原裏1号墳—



「石がまっすぐ並んでるよ」、「こっちもそうだよ。でも、こっちは向きが違うよ」という作業員さんの声を聞きながら、「そこはそのままにして西側に移って行こう」という調査員の指示で墳丘の残存部上面を東から西へ削って遺構の確認をしていきました。その結果、中央部に徳利型をした石室（死者を埋葬する施設）があり、中からは腰に大刀を水平に下げる刀装具が発見され、この古墳の被葬者の地位が高いことが判明したのです。さらに、この主体部を挟んで西側の墳丘端にも最初に東側で確認された折れ曲がる直線の石組みと対称を成す石組みが確認され、円墳ではなく

多角形墳である可能性が非常に高くなってきました。しかもそれぞれの内角が135度前後を示すことから平面形が八角形となり、地方では非常に希少な八角墳（八角形墳）であることが分かったのです。

古墳の位置はJR籠原駅すぐ北側（国道17号線より南）の台地上にあり、平安時代の大洪水で埋まりさらに上部は削られ、桑畑になっていて古墳の存在は知られていませんでした。その後、区画整理事業で発見され、第3話の大塚古墳と同様に埴輪をもたなくなった時期である古墳時代終末期（7世紀後半）に築造された古墳であることが分かりました。この特異な形の古墳は、北約2kmに同時期に造られる幡羅（はら）遺跡や西別府祭祀（にしべっぴさいし）遺跡などと密接な関連性が想定され、重要度を増しています。

文化財 MEMO

報告書販売について

江南文化財センター窓口において埋蔵文化財調査報告書の販売を行っています。「女塚遺跡・女塚4号墳」、「三ヶ尻遺跡」、「北島遺跡」、「前中西遺跡」、「籠原裏古墳群」、「拾六間後遺跡」、「諏訪木遺跡」、「藤之宮遺跡」などの報告書を、500～2,000円の価格で販売しています。詳しくは、江南文化財センターまでお問い合わせ下さい。なお、各報告書のPDF版はホームページにて公開しています。

今後の文化財関連カレンダー

8月：上新田屋台囃子（21日）、下恩田ささら獅子舞（22日）、池上獅子舞（28日）
9月：星溪園で楽しいお茶会（19日）、俳句入門講座（16日～）
10月：須賀広秋祭りササラ（中旬）、押切ささら獅子舞（中旬）
11月：県民の日イベント（14日）、歓喜院竣工式（18日）、第3回地域伝統芸能今昔物語：大里（23日）

編集後記

「ドレスデン・エルベ渓谷」が、景観を損ねる橋建設により、ユネスコ世界遺産リストから抹消されて約1年が経過しました。渋滞緩和を目的とした橋建設計画を実行するか、美しい景観の維持を重視するかという判断を住民投票に委ねたところ、建設賛成派が過半数を超え、計画が実行されたのでした。ここに見るような文化財と開発の関係は、本市の文化財保護行政においても重要な課題であり、文化財の持続可能な未来に向けて検討を続けていきたいテーマであると言えます。

なお、前回、クイズを出題しましたところ、市外遠方からもご応募をいただきました。ありがとうございました。



発行：平成22年7月20日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

ホームページ：文化財データ、埋蔵文化財の取扱方法、「BUNKAZAI 情報」カラー版などを豊富に掲載

「熊谷市の文化財」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/>

「熊谷市 web 博物館」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>